

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏 名	村上 正和		
入学年度	平成27年度	学籍番号	15GG607
領 域	健康支援科学	分 野	障害保健学
審査委員	主 査	若山 佐一	
	副 査	吉田 英樹	
	副 査	門前 暁	
	副 査	高見 彰淑	

論文題目：自宅退院後の家族介護者の介護負担感に関する研究

審査結果要旨：

本論文は、自宅退院後の家族介護者の介護負担感について検討したものである。はじめに、文献調査から関係する要因と評価指標を抽出した。その後、介護負担の発生予防の観点から、自宅退院1か月後の介護負担感に関連する要因の検討を行った。その結果、家族介護者の予想との差と睡眠時間に関連する因子を抽出できた。さらに対象を増やし、要因の再確認と前述の2要因の関連因子の検討という3つの研究により構成されたものである。

その結果、予想との差には入院中の面会時間数と排便コントロールが関与し、排便は認知機能障害とともに睡眠時間にも関与する事が判った。これらは当該専門分野における有益な情報提供となり、介護負担感の発生予防を目的とした家族支援という観点は、回復期リハ病棟での退院時指導と関連が強いこともあり、新たな視点といえる。それと同時に、今後展開される研究面ならびに臨床面への貢献度も大きいと考えられた。

申請者は現時点での研究結果の意義と問題点を十分に理解おり、学位審査会で示した上で質疑にも的確に対応していた。さらに、学位論文においては、本研究の限界や今後の展望についても記述されており、今後の研究の発展性も十分に期待された。

本研究の遂行にあたり、申請者は計画からデータ収集・解析ならびに公表等の過程において優れた研究遂行能力を有するとともに、将来的に独立した研究者としての研究遂行能力と、高い倫理観を身につけ、一層研鑽する見込みが感じられた。この点は、学位審査論文及び学位審査会において充分伺われた。従って、博士の学位に資すると判断した。

最終試験 平成 30 年 2 月 1 日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。